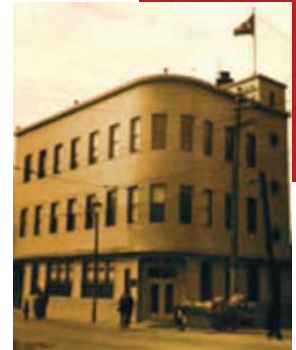


～文化的価値の高い歴史的建造物を活用してまちを楽しむ～



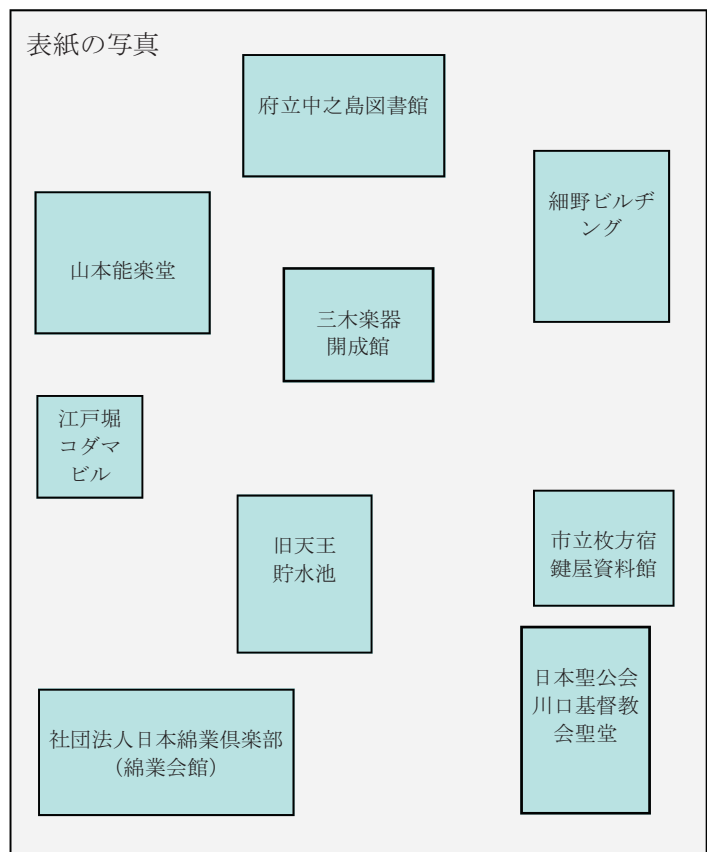
大阪楽座事業 採択企画集



目次

- 03 はじめに
- 04 大阪楽座事業をふりかえって
—文化のまちつかいを是非これからも—
- 05 8年間の採択企画記録
- 23 活動団体の皆様からのメッセージ
- 28 活動団体データ
- 35 参考

表紙の写真





はじめに

文化的価値の高い歴史的建造物を活用してまちを楽しむ。
「大阪府楽座事業」では、そんな事業を応援します。

大阪府には、永く受け継がれてきた歴史的建造物が数多く残されています。これらの建物は、社交場や宗教施設、橋や駅舎など、人々の交流拠点やコミュニティの中心として、あるいは、活力ある大阪を支えてきた産業拠点であるとともに、文化面でも重要な役割を担っていました。

歴史的建造物は、「商都大阪」「上方文化の中心地 大阪」を象徴する、貴重な歴史的・文化的財産です。

大阪府では、多くの府民の皆様は歴史的建造物に目を向けていただき、歴史的建造物のもつ集客、コミュニティ形成といった機能を再生させ、ひいては、文化の力による「まちの賑わい」の創出や「大阪の活性化」をめざし、平成15年度から平成22年度までの8年間にわたり、寄付金を原資として、民間団体が歴史的建造物を活用して行う文化的活動を公募し、優れた事業に助成する「大阪楽座事業」を実施してまいりました。

この「大阪楽座事業 採択企画集」は、その8年間の取り組みについて取りまとめたものです。



《事業名の由来》

織田信長の行った「楽座」政策は、古い慣習を断ち切り、門戸を開放することにより、商工業の自由化を図ったものです。

また、「楽」の字が意味するとおり、楽しむことそのものも意味します。

さらに、「座」という言葉には、歌舞伎座などに表されるとおり、劇場といった意味もあります。

大阪府では、座を広く「文化活動の場」と捉え、「歴史的建造物」が広く府民一般に開かれ、誰もが楽しめる文化振興の拠点として活用されるようお願いを込めて、「大阪楽座事業」と名づけました。



大阪楽座事業をふりかえって —文化のまちつかいを是非これからも—



小暮宣雄（大阪楽座事業選考委員会委員長）

まず、大阪府庁さんが文化政策に関わるこの大阪楽座事業を8年間もの長いあいだ続けていただいたことについて、心から感謝し御礼申し上げます。公共政策のなかでも、文化関係は、すぐに結果が出ない事業であり、最低限5年以上の継続が必要と言われますが、昨今、指定管理者制度はじめとして、すぐに成果・効果を出すような評価主義が蔓延しているなかで、実にレアで幸せなケースであったと思います。

また、この事業は篤志家による寄付に基づく事業であると聞いています。しかもネーミングライツはじめ広告主義的な現在の風潮とはまったく逆に、表に出ないことや地味な事業をするという条件など実に奥床しい篤志家さんの志に御礼申し上げるとともに、その暖かい気持ちをこのような文化事業として実現されてきた歴代の文化担当者さんたちにも感謝したいと思います。

さらに、楽座事業を行うために必要な歴史的建造物のリスト化にかかわり、私有する施設を提供し、時にはその活用方法について積極的にアドバイスしていただいたオーナーの皆様にも感謝したいと思います。同様に、この制度を理解し、文化事業をオーナーさんなどと一緒に企画し応募していただいた方々や審査員のみなさん、そして、これらの企画事業を知り、積極的に足を運んでいただいた皆様、本当にありがとうございました。



地域の歴史的文化的資源を単に遺産として保存するのではなく、いまに活用することで動的に保存継承すること—私の言葉にすると「文化のまちつかい」の場をつくること—、他方、文化団体が自分達の活動を特定の文化施設だけに閉じ込めずに、まちとかかわり「文化のまちつかい」に関わることで、参加者を広げ自らを脱皮するきっかけになること・・・そのようなねらいを持つ大阪楽座事業は、この8年間で大阪府下の広範囲にわたり（山あり谷あいの変動はあったとしても）、十分に展開できたのではないかと密かに自負しております。

この事業は、ひとまず終了ということになりましたが、8年間という長い期間にわたって蓄積されたデータベースが残っております。そこには、どのような歴史的な施設が大阪府下にあるのか、それらはどのような文化団体がどのような文化事業として活用されてきたのか、そして、大阪府下に文化事業を行うみなさんはどのような方々がいらっしゃるのか、その方々はどんな文化ジャンルがあり、どういうミッションを持って活動されているのかなどがわかると思います。

また、このような「文化のまちつかい」というステキな機会が別の形で出来るようになることを祈念しつつ、一審査員として、この企画に関与できたことを感謝して、筆を置きたいと思えます。



写真 左：細野ビルヂング、右：フジハラビル